

終了報告書

留学プログラム名	G20 Youth Forum2013 (Conference)
所属(本学)	工学部情報工学科 学部4年(留学時)
留学先	ロシア連邦・サンクトペテルブルグ
留学期間	プログラム実施期間: 2013年4月17日～2013年4月21日 滞在期間: 2013年4月17日～2013年4月21日

① 留学先(参加プログラム/受入れ機関)についての概略

世界の若いリーダーを一同に集め、最新情報の交換および人間関係の構築を目的とする、世界最大規模の大会が G20 Youth Forum である。今年が 7 年目であり、参加者は合計で 1500 人を数える。第一回がサンクトペテルブルクで行われ、ベルリン、東京、ミラノ、バンクーバー、パリ、ワシントンの後、今年再びサンクトペテルブルクに戻ってきた。

この会は 4 種類の異なる議論の場が設けられている。すなわち、Youth Summit、Conference、International Young Parliamentarians' Debate、Alumni's Meeting である。主要なものは Conference と Summit である。Conference では分野別に部屋(Round Table)が設けられ、予めその分野の記事を書いた参加者がそれを発表し、現場で様々な経歴を持つ参加者と議論をするものである。Summit は、各国から各大臣を担当する人が集まり、実際の G20 で議論されるものと同じ議題を議論し、各国の大臣担当の意見をまとめた共同宣言なる文書を発行する。それを実際の G20 に提案するところまで行う。

この会の参加者は代表国、出身、専門が非常に多様であった。G20 の国の特定の大学の先生や学生は講演者などとして参加し、それ以外の大学の人オブザーバーとして参加していた。現地でも知合った友人の代表国は南アフリカ、ルクセンブルク、インド、オランダ、ロシア、中国などであった。

② 留学前の準備

情報収集には苦労した。なぜならば、東工大が参加したのは今回が初めてで、プログラムに関する過去の情報が手に入らなかったからだ。ウェブサイトにも細かい情報はなく、結局、大会主催者から送られてくるメールによって徐々に内容が把握できた。

開催地がロシアなので、ロシア語の基礎を勉強してから行った。キリル文字が読め、簡単な挨拶ができるという程度であったが、街中では看板が何を指しているのかよく見当がつかないし、人と話すときも英語が通じない人が多いので、挨拶だけでも随分と重宝した。

ビザに関して。ロシアは日本人がビザを必要とする地域の一つである。しかも、電子ビザではないのでロシア連邦大使館にパスポートを持って行き、ビザを貼り付けてもらう必要がある。申請手続きには時間がかかり、2 週間待てれば無料、急ぎだとそれに応じた特急料金を支払わなければならない(最高 2 万円強)。

滞在先は大会運営本部に指定されたホテルだった。大会自体もそのホテルで行われ、観光を除けば全ての生活がそのホテル内で行われた。ちなみにそのホテルは、サンクトペテルブルクに 5 件程度しか存在しない大きなホテルの内の一つである。

③ 留学中の活動及び感想

私は Conference で自分の卒業研究について発表を行った。同じ会では他の参加者たちが、同じ分野(Innovation and Information Technology)とは言えかなり違う内容の発表をしていた(Robots, Healthcare, Education など)。英語を母語とする人が大勢を占める中で発表すること、また聴衆の中に学生のみならず教授もいるという条件は初めてであったので、今回の Conference での発表は新しい挑戦となった。結果として、ある程度場の和やかさを保ったままプレゼンテーションを終えられたので、自信がいった。



自分が発表する会以外の時間帯には、他の Conference や Summit を見学した。Conference では、個々人が他人の発表分野について多くの知識を持っていないため、議論が深まることは少なかったが、多様な問題について考える良い機会であった。Summit では、各国の大臣で知識レベルや言語能力の差があるが、Facilitator が残りの大臣を上手くまとめ、共同宣言を書き進めていた。

また、G20 Youth Forum は社交面に異様な力の入れ具合を見せる。参加者は男性ならタキシード、燕尾服を、女性ならそれに準じるドレスを着て、正餐を共にし、ワルツやタンゴを踊る。そのために衣装の貸出業者を大会期間中はホテルに常駐させ、プロフェッショナルのダンサーによるダンスレッスンを 3 回催された。



晩餐会は荘厳かつ壮麗な造りの、20 世紀前半のロシアの建物で行われ、開会式では一流のピアニスト、歌手、ダンサーの演技も披露された(個人的に好きな映画「Scent of a Woman」のタンゴの曲も出てきて嬉しかった)。このことから分かるように、ロシア人は、少なくともこのプログラムにおいて、格式や威厳といったものを非常に重視する。

空き時間を見つけて街の中心部に観光にも出かけた。サンクトペテルブルクは非常に美しい街並みを誇っている。世界三大美術館の一つであるエルミタージュ美術館から一直線に伸びる大通り、ネフスキー・プロスペクトを中心として、建物、道、運河が基盤の目を成す。建物の高さや色が統一されていて、その間を車で走ると、統一感のある街並みの中でロシア正教の寺院や美術館の美しい外観、色彩が目飛び込んで来て、特別に目立っている。

エルミタージュ美術館では、時代や場所を大きくまたいだ品々が惜しげも無く展示されていた。見どころは展示物のみならず、建物自体も驚嘆に値する。贅沢な空間デザイン、重厚な設計、精緻な彫刻を見ていると、ロシア人が何をよしとするかをうかがい知ることができる。

ロシア正教寺院では、訪れたのが日曜日だったからか、礼拝が行われていた。男女混声の短調の曲を節目節目に挟み、王様のような出で立ちをした神父たちが式を執り行っていた。ロシア正教に対する前提知識をあまり持ちあわせていなかったが、そんなことは関係なしにその宗教の偉大さを感じることができた。

天候について特筆すべきことは、街の緯度が極度に高いため、日照時間も極端になっている。私が滞在した4月では、日没は夜9時頃、日の出は朝の5時といったところであった。夜の青空は、独特の色を見せてくれる。気温は、東京で最も寒い時期よりも体感温度は若干高いと感じた。寒くとも、カラッとした空気のなか散歩をするのは気持ちが良い。

④ 留学費用について

渡航費は12万円、プログラム参加費は10万円(1090USD)、タクシーのレンタル代2万円強、というのが主な出費だった。奨学金は無かった。

⑤ 留学先での住居について

ホテルのダブルベッドルームに宿泊した。大会本部が参加者の部屋割りを決めていた。私のルームメイトは他の大学から来た日本人だった。後で聞いた話によると、同じ代表国の参加者同士を同じ部屋に割り当てていたようだ。申し込みは大会本部が代行してくれた。

⑥ 留学先での語学状況

留学期間中は主に英語、日本人とは日本語、ロシア人にはロシア語で挨拶をしていた。英語はTOEFL iBT 94を持っているが会話に関してはこの実力では歯がたたない。他の地域の参加者との歴然たる差を感じた。ヨーロッパ、南アフリカなどはともかく、韓国、台湾勢の英語の能力の高さには驚かされた。

⑦ 単位認定について

単位は認定されない。しかし、社交ダンスは相当頑張ったので、教養科目として5単位くらいもらっても良いような気分だ。

⑧ 留学経験を今後、どのように活かしたいか

大会を通して途上国について考える機会が多かった。国際開発に強い関心を持ったので、今後この分野について調べてゆきたい。

また、語学の欄で前述のとおり、日本人の英語能力の低さが目立っていた。しかし事実としてG7の一員として国際社会で認められていることは、日本人が国際社会の営みに貢献できることの証明である。その理由は何か。それは勤勉さであると感じた。情報収集、仕事の丁寧さは日本人の強みとなりうる。言葉は拙くとも、伝えるべき内容さえあれば、相手が困っているときは耳を傾けてくれる。相手に問題がなければ、その時は相手に任せればいい。

しかしながら、その情報収集、仕事の丁寧さにおいても外国人と比べてそう大差は無くなっているとも感じた。日本人は英語能力の向上につとめ、より多くを発信、受信できるようにする。これが世界への貢献度合いを上げることに重要なのではないか。そうすれば元々の強みも更に活かすことができる。その目的のために、今後も英語能力の向上に努めていきたい。

また、ロシアの言語や文化にも益々興味が湧くようになった。留学をすることで、その後の日常生活においても情報に対するアンテナが増える。今後は日本のこの大きな隣人についてももっと知っていければと思う。

⑨ 留学先で困ったこと(もしあれば)

⑩ 留学を希望する後輩へアドバイス

このプログラムの募集を見たとき、自分にはまだ大変すぎるかと思いましたが、参加してみると成るようになり、最後までやり通すことができました。これで自信が付きましますので、皆さんも少しでも興味がかければ応募してみてください。あとは成るようになりまします。